

小学校外国語活動

Let's enjoy English!

授業づくり ガイド

～小学校における外国語教育の
更なる充実に向けて～



栃木県総合教育センター

今後、小学校外国語活動はどのように変わっていくのでしょうか。

2020年度から小学校における外国語教育は、次のように変わります。

現在

高学年

外国語活動

年間35単位時間

「聞くこと」「話すこと」を中心とした言語活動を通して、コミュニケーション能力の素地を養う。

2020年度

高学年

外国語科

年間70単位時間

「聞くこと」「話すこと」に加え、「読むこと」「書くこと」を含めた言語活動を通して、コミュニケーション能力の基礎を養う。

中学年

外国語活動

年間35単位時間

「聞くこと」「話すこと」を中心とした言語活動を通して、コミュニケーション能力の素地を養う。

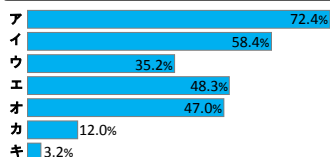
アンケート結果から

「できるだけ英語を使うこと」「児童と意味のあるやりとりをすること」を重視したいと、先生方は思っています。

外国語活動の授業の更なる充実に向けた支援を考えていくために、当センターにおける研修受講者にアンケート調査を行いました。以下は集計結果からの抜粋です。

(アンケート回答者数 366名)

Q: 外国語活動を進める上で、困っていることや不安なことはありますか。(4つまで選択可)



〈選択肢〉

ア 英語力
イ 指導力
ウ 教材研究の時間確保

エ 評価

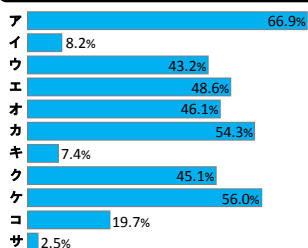
オ ALTとの打合せの時間確保

カ 教材・教具

キ その他

「英語力」を選択した割合が72.4%、「指導力」を選択した割合が58.4%でした。「英語力」「指導力」に対して自信をもてない様子がうかがえました。

Q: 外国語活動の授業で、今後、重視したいことは何ですか。(5つまで選択可)



〈選択肢〉

ア できるだけたくさん英語を使うこと
イ 説明や内容理解において日本語を使うこと
ウ 興味をひくトピック(話題、テーマ)の選定
エ 効果的に視聴覚教材を使用すること
オ 異文化理解に関する内容を取り上げること

カ 英語による児童との意味のあるやりとり
キ 児童に英語を覚えさせること
ク 児童に英語を言わせること
ケ 児童に英語を聞かせること
コ リピートによる反復練習

サ その他

回答率が高かった選択肢は、「できるだけたくさん英語を使うこと」(66.9%)、「児童に英語を聞かせること」(56.0%)、「英語による児童との意味のあるやりとり」(54.3%)でした。英語を使って授業を行いたいという先生方の思いがうかがえました。

Q: 外国語活動に関する意見等 (自由記述)

担任がT1として進めていくことが望ましいと分かっていますが、英語力がついていきません。自分自身が教室英語をたくさん使いたが、子どもたちに「英語は身近なもの」と感じさせていきたいです。

子どもたちがやってみたく思えるような場面の設定をする、英語での自然なやりとりにつながっていくと思います。



先生方は、英語力と指導力に不安があるんだね。でも、子どもたちが英語に親しみ、英語で発言したいと思えるような授業をしたいと考えているんだね。

そうだね。では、学級担任としての授業づくりについて、一緒に考えていこう!



学級担任としての授業づくりの視点を再確認しましょう。

み 単元や単位時間を **見通した指導** を意識しましょう！

- 単元末でどのようなコミュニケーション活動を行わせるのかを押さえます。
- 「ねらい」「指導」「振り返り」を見通して1時間の授業の流れを考えます。
- 授業の最後にどのようなことを児童に振り返らせるのか、ねらいに沿って考えます。

ある先生の
つぶやき

本単元での目指す姿を押さえ、ねらいを達成するための指導を考えていくことは、外国語活動も他の教科と同じだと思います。



も 英語を使う・学ぶ・楽しむ **モデル** になりましょう！

- 英語を使って積極的に褒めます。
- 児童と共に学ぶ気持ちで、外国語活動を一緒に楽しめます。
- 英語でコミュニケーションを図ろうとする姿を児童に見せます。

ある先生の
つぶやき

外国語活動の担当として、「間違ってもいいからどんどんA L Tのまねをして、自分が使える教室英語を増やしていこう」ということを、本校の先生方に伝えています。



ば 意味のあるコミュニケーションの **場面を設定** しましょう！

- 児童が「英語で伝えたい」と思えるような必然性のある場面を設定します。
- 担任の強み（児童をよく知っていること）を生かして、児童にとって身近な話題を授業で取り入れます。

ある先生の
つぶやき

学校行事や最近の出来事などを取り上げて、子どもたちが伝え合いたくなるような場面を設定しています。常に子どもたちと一緒にいる担任だからこそ、児童の興味・関心を生かすことができるのだと思います。



キーワードは、「見通した指導」「モデル」「場面設定」だよ。
さあ、ページを開いてみよう！



授業づくりの視点をどのように授業の中で取り入れていくのか、次のページから具体的な例を紹介していくよ。



よりよい授業にするために(単元の捉え方)

単元の流れをつかみましょう

外国語活動の授業では、児童が「気付く」「慣れ親しむ」「伝え合う」ということができるような活動を工夫します。

気付く

自国や他国の言語や文化、またその違いを知り、言葉の面白さや多様なものの見方や考え方に気付くこと

慣れ親しむ

外国語の音声やリズム、基本的な表現に慣れ親しむこと

伝え合う

外国語を用いて、友達や先生等と互いの気持ちや考えを伝え合うこと

単元の指導計画 (Let's go to Italy.) の例

文部科学省「Hi, friends!」関連資料
学習指導案を参考に当センターで作成

み

まず、本単元での目指す姿を押さえるんだね。それに迫るために、どんな指導をするとか、各単位時間での授業づくりを考えてみるといいよ。

(Hi, friends!2 Lesson 5) Let's go to Italy.

単元目標

- ・自分の思いが伝わるように、おすすめの国について伝えたり、積極的に友達のおすすめの国を聞いたりしようとする。
- ・行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。
- ・世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。

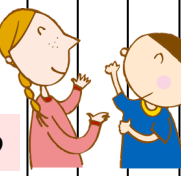
単元評価規準

- ・自分の思いがはっきり伝わるように工夫して、おすすめの国について発表したり聞いたりしている。
- ・行きたい国について尋ねたり言ったりしている。
- ・世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付いている。

表現

(文章) I want to go to Italy. Where do you want to go? Let's go.
(単語) America, Australia, Brazil, China, Egypt, France, Greece, India, Japan, Spain, eat, see

単元計画 (4時間)

単元全体をゴールから考える	目 標	評価	例えば
		コ 慣 気	
1	国名の言い方を知る。 気付く		日本語と英語とでは、国名の言い方が似ていたり全く違っていたりするんだね。面白いな。
2	行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 ※聞いて分かる段階 慣れ親しむ	○	・国名
3	行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 ※言えるようになる段階 慣れ親しむ		「どこに行きたいの?」や「ここに行きたい」という言い方を何回も聞いたから、早く友達に伝えてみたくなったわ。友達はどこに行きたくなったのかしら。
4	自分の思いが伝わるようにおすすめの国について伝えたり、積極的に友達のおすすめの国を聞いたりしようとする。 伝え合う	○ 	・自分の思 自分のおすすめの国について伝えられて嬉しかったよ。友達のおすすめの国や好きなことも分かって、新たな発見もあったよ。

4時間目の授業について、次のページで授業づくりのポイントを紹介するよ。

よりよい授業にするために(1時間の授業の流れ)

1時間の授業の流れをつかみましょう

Let's go to Italy. (4時間目の例)

児童の活動

- あいさつをする。

文部科学省 “Hi, friends!” 関連資料
学習指導案を参考に
当センターで作成

復習

【Let's Chant】

- 音声教材を聞いて、絵カードを見ながら言う。

めあての確認

- 全員でめあてを確認する。

(例) 友達とおすすめの国について伝え合おう。

活動①

【Activity】①

- 写真を見て、登場人物（さくらとひかる）がどこへなぜ行きたいのか予想する。
- 音声教材を聞いてわかったことをメモする。
- 再び音声教材を聞いて、メモを確認しながら自分の予想が合っていたかどうか確かめる。

活動②

活動②において、本時の評価を行う。

【Activity】②

- 活動①をもとに、自分のおすすめの国について伝える準備をする。
- 相手に伝わるように工夫しながら、友達とおすすめ国について伝え合う。

振り返り

- 振り返りカードに記入する。
- あいさつをする。

本時の目標

自分の思いが伝わるようにおすすめの国について伝えたり、積極的に友達のおすすめの国を聞いたりしようとする。

み

復習の場面では、活動②につながる内容を意識して

子どもたちが自分の行きたい国について伝えたり聞いたりできるよう、よく使う表現や国名を、授業の導入で復習させよう。



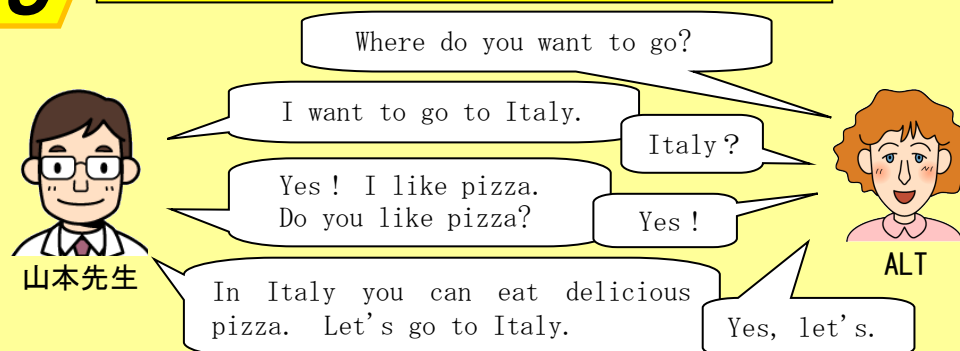
山本先生

このチャンツは、前の時間に勉強したいろいろな国の名前だね。今日は、今までの授業で学習したいろいろな国名を使っていくんだ。



も

活動②に向けた意味のあるやり取りをするモデルを示して



すごいわ、山本先生が英語でしゃべってる！先生はイタリアをおすすめしてるのね。わたしは、オーストラリアをおすすめしたいわ。



ば

児童が英語で伝えたいような場面の設定を考えて

子どもたちが積極的に伝え合いたくなるようにするには、活動②の最後にどんな場面を設定したらよいか？

誰のおすすめの国に行きたくなったか、どうして行きたくなったのかを、山本先生が子どもたちに聞くようにしてはどうかしら。



石川先生

できるだけたくさんの友達から、おすすめ国を聞くようにしましょう！自分の紹介する国のことも、はっきり伝えるようにしたいな。



★振り返りのポイント



本時のめあてに対して振り返らせることが大切です。

振り返りカードの内容(例)

時	ふり返ってみよう	ABC	気づいたこと・心がけたこと
第4時	自分の思いを伝えられたか。		
	進んで聞いたか。		

＜児童の振り返り(例)＞

友達の顔を見ながら伝えられた。Aさんの紹介の仕方が聞きやすくて、中国に行ってみたくなった。

よりよいコミュニケーションを促す工夫

(例) 児童同士のモデルを示す

活動中でも、よくできているモデルがあれば、活動を中断してクラス全体で共有します。



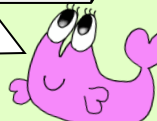
このペアのどんなところがよいと思いますか？

相手の方を見て話しています。

声をはっきりしてるし、話すスピードもちょうどいいと思います。

では、皆さんが気付いたところを意識して、活動の続きを行いましょう。

友達のコミュニケーションの姿から気付かせていくこともいいですね。



伝え合う必然性を高める場面設定の工夫

- (例)
- ・おすすめ国ランキング
 - ・行きたくなった国ランキング
 - ・旅行会社の窓口でのやり取り

児童の実態に応じて、児童がより積極的に伝えたり聞いたりしたくなるような場面設定を工夫します。

このクラスで、どの国が一番おすすめ国だったか、みんなに予想してもらいます。

子どもの実態に応じた場面設定をすると、伝え合う必然性を生み出し、子どもの意欲を高めることにつながるんだね。



学校全体で外国語活動の充実を図るために

気軽にできる外国語活動に関する校内研修の例を提案をします。

ミニ研修会を開こう

短時間でできる研修会を実施します。その際のポイントは、①テーマを絞り②参加可能な先生が③短時間（20分程度）で行うことです。

ミニ研修会（例）

- 教室英語のミニ講座
- モデルの示し方
- 写真や絵カードの活用の仕方
- 絵本の活用の仕方
- ICTの活用の仕方
- 校外での研修の報告



<ミニ研修会のメリット>

- ・気軽に参加することができる。
- ・限られた時間の中で行うため、内容が焦点化される。
- ・短時間の研修を継続的に行うことで、先生方の英語に慣れ親しむ機会が増えるとともに、授業づくりへの理解が深まる。

授業を見に行こう

校内の外国語活動の授業を見に行きましょう。次のようなポイントで参観すると、次の自分の授業に生かせる授業参観となります。

参観のポイント（例）

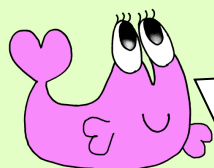
- ねらいを踏まえた活動になっているか。
- 担任がモデルとしてどんな姿を見せているか。
- 児童が主体的に聞いたり話したりできるような場面の設定の工夫がされているか。

授業参観をした先生方の感想（例）

子どもに伝わるように工夫してめあてを提示したから、子どもたちもめあてに対する振り返りを書くことができたのね。

担任の先生が、楽しそうに英語をたくさん使おうとしていたので、子どもが興味をもって聞いていたね。

子どもが、一人でも多くの友達と伝え合いをしようとしていたのは、子どもにとって興味のある場面設定となっていたからだね。



学校全体で取り組むことで、外国語活動の授業が、より充実するんだね。

校内研修を通して、日頃から外国語活動についての情報交換ができる雰囲気を作っていたら素敵だね。



授業づくりに役立つ資料

外国語活動について、基本的な内容や最新の情報等を更に詳しく知ることができる資料を紹介します。



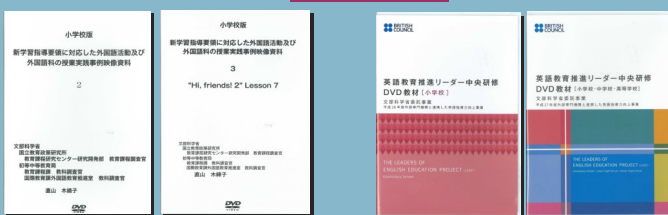
冊子



○小学校外国語活動研修ガイドブック／文部科学省

外国語活動の指導や授業づくりにおける指導・活動案等が掲載されています。

映像資料



- 「新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料 2・3」／文部科学省
- 平成26・27年度「英語教育推進リーダー中央研修」DVD教材／British Council

校内研修等において、DVDを視聴して教具の活用について話し合ったり、授業実践の具体的なイメージをもったりする上で参考となる映像資料です。



ある先生の取組

できるだけ日本語を使わずに、ALTの言ったことを繰り返したり、ALTに聞き返したりするなど、私が英語を使おうとしている姿を見て、子どもたちも英語を使うようになっていきました。「英語は苦手」と言っていた子が、英語を使いながら楽しそうに活動している様子が見られたとき、とても嬉しくなりました。

県内の先生方もがんばっています

職員室のドアに、一日一枚ずつ手書きの教室英語を掲示しました。先生方から「使ってみよう」「がんばって覚える」という声が聞かれ、嬉しかったです。最初は意味は書かずに英語だけを掲示していましたが、「日本語（の意味）も書いてほしい」との要望があり、途中から必要に応じて日本語訳を付け加えるようにしました。

ある先生の取組



【職員室の掲示】

我が国の教育が大きな変革期を迎えている現在、小学校における外国語教育にこれから求められるものは何でしょうか。多くのことが考えられますが、その一つとして確実に言えることは、現在の外国語活動の授業を一層充実させていくことです。具体的には、学級担任が中心となり、外国人や日本人の指導助手と協力して児童の実態を考慮した授業づくり・実践を行うことです。その際、高学年担当の先生方だけでなく、全教員で外国語活動の指導を考えていくことが求められています。このように、学校全体で取り組むことが、2020年度からの小学校における外国語教育を推進することにつながります。

本リーフレットは、県内の小学校の全ての先生方に一部ずつ配布しています。外国語活動の授業の更なる充実及び児童のコミュニケーション能力の素地づくりのために、本リーフレットをぜひ御活用ください。

これで安心だね。

◆本リーフレットは、栃木県総合教育センターのWebサイトで閲覧及びダウンロードできます。

